

中国経済について

2015年10月16日

榑原 定征

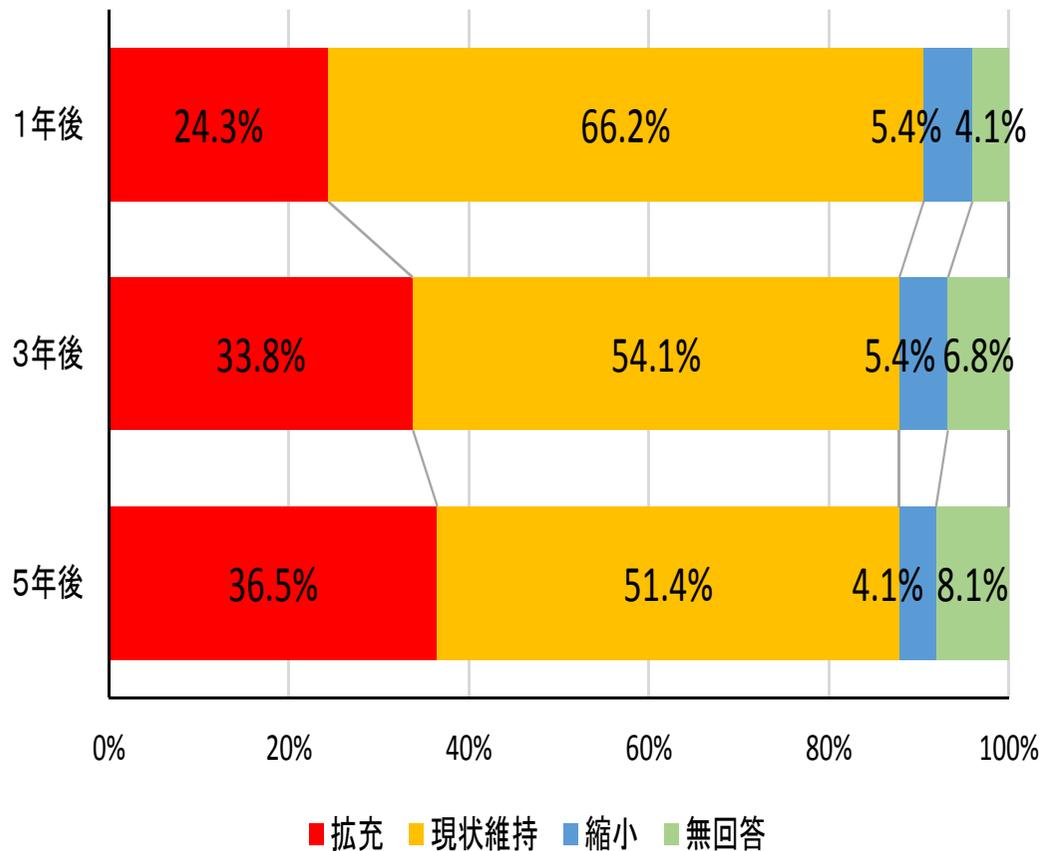
1. 経済界の認識

- (1) 中国経済は、地域・業種により状況は異なるが、全体として短期的には減速局面。
- (2) こうした中で、中国政府は金融緩和などの景気下支え策を行う一方、
- ① 投資・輸出主導から消費主導への転換
 - ② サービス業の発展
 - ③ イノベーションによる生産性向上
- といった構造改革(『経済発展モデルの転換』)を図っている。
- (3) このような政策効果もあり、中長期的には「新常态(ニューノーマル)」の下で、6%台の安定した『中速成長』を続けていくとみられる。
- (4) 経済界としては、中国経済の現状と将来を悲観視しておらず、今後の中国でのビジネス展開については、現状維持～拡充のスタンス。

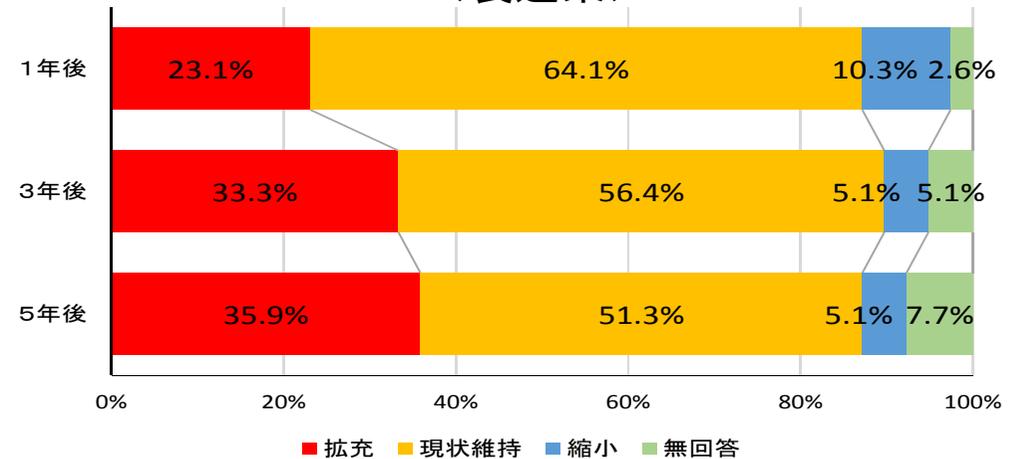
2. 中国における今後のビジネス展開について

経団連が実施した緊急アンケートでは、中国における今後のビジネス展開の方針は「現状維持」の企業が最も多いが、約3分の1の企業は「拡充」の方針。

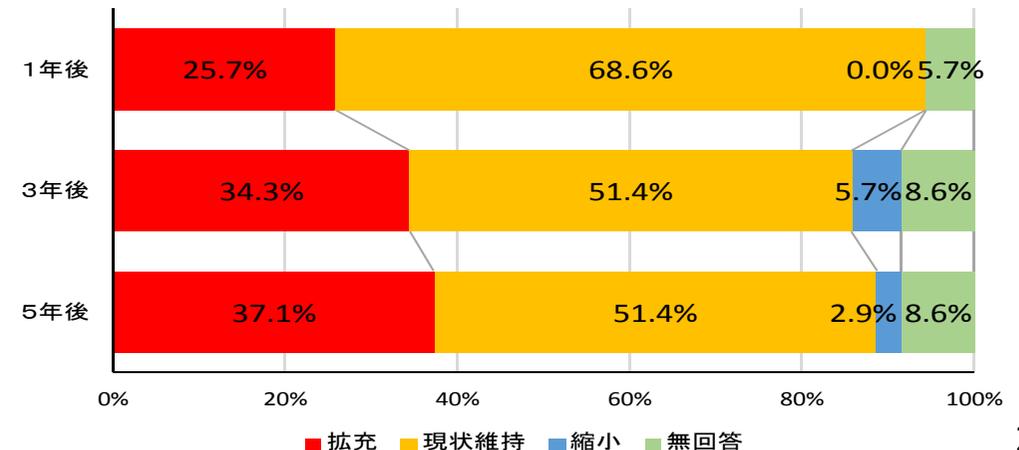
<全産業>



<製造業>

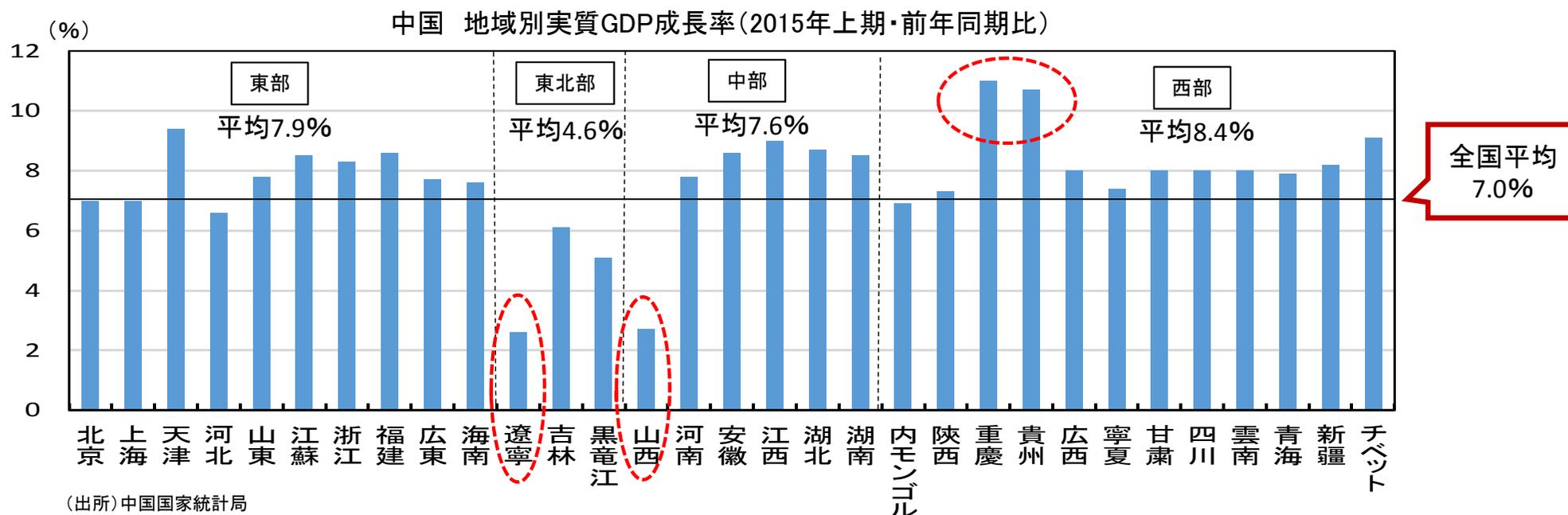


<非製造業>



3. 地域別の動向

地域	コメント
都市部	<ul style="list-style-type: none"> ・市場の大きい直轄市(北京・上海等)や広州市では、景気は堅調。 ・一方で、入札価格下落など価格圧力も強く、他社との競争も激化。 ・景気下支え策もあり、都市部を中心に、高速道路・鉄道などの建設が活発化。 ・北京・上海などの大都市を中心に、不動産市場は回復基調。
地方部	<ul style="list-style-type: none"> ・西部の重慶、貴州は、10%超の高成長を維持。 ・生産過剰業種や鉱業への依存度が高い地域は相対的に低成長。特に、鉄鋼が主要産業である遼寧省、石炭が主要産業である山西省が低成長。 ・東北部については、成長鈍化。 ・内陸の地方都市では、住宅販売在庫が積み上がり低迷。



4. 業種別の動向（懸念・リスク要因）

(1) 全体

- ① 鉱業など過剰生産能力を持つ業種は当分厳しい。
- ② 大都市での大気汚染の問題。赴任者の家族が帰国。
- ③ 中国のコーポレートガバナンスに対する不信感。

(2) 製造業

業種	懸念・リスク要因
繊維	・各種規制の急な変更
化学	・医療制度改革や環境規制強化によるコスト増
鉄鋼	・過剰生産による価格下落
電機	・IT製品販売に関する外資規制強化の動き
自動車	・足もとの経済成長率の減速

(3) 非製造業

業種	懸念・リスク要因
卸売	・日中関係の動向
小売	・労働コストの増加
金融	・法制度の不安定性、不明確性 ・外資規制